

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○大規模水害・土砂災害に備えた治水対策の推進

「流域治水」の考え方にに基づき、石狩川、千歳川等の洪水氾濫を未然に防ぐための河川改修、北村遊水地の整備や、豊平川の土砂災害等を軽減する砂防施設の整備を推進。また、幾春別川総合開発事業のうち新桂沢ダムについては、試験湛水を実施。雨竜川ダム再生事業は建設段階へ移行し、早期完成に向けて事業を推進します。



【北村遊水地の整備】



【幾春別川総合開発事業(新桂沢ダム)】



【雨竜川ダム再生事業(雨竜第2ダム)】

【今年度の実施(完了)状況】

- 石狩川および千歳川ほか支川の河川改修を促進。
- 千歳川流域においては、令和5年8月「特定都市河川」へ指定し、流域のあらゆる関係者と連携して流域治水の実効性を推進。
- 北村遊水地において、周囲堤・囲ぎよう堤などの遊水地整備を推進。
- 土砂災害等の軽減を図るため、南の沢川・オカバルシ川・簾舞川において、引き続き、砂防施設の整備を推進。
- 雨竜川ダム再生事業(雨竜第1ダム及び第2ダム)の建設段階へ移行。
- 新桂沢ダムの試験湛水の実施及び三笠ぽんべつダムの建設事業を推進。
- 空知川幾寅地区において、平常時の利活用と災害時の水防活動の拠点となるMIZBEステーションについて北海道初の登録。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

（1）災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの耐災害性強化

○災害時の救援や緊急物資輸送を支える道路交通ネットワークの整備

災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築・機能強化として、道路交通の多重性や代替性の確保を図るため、高規格道路や並行する一般国道等の整備、橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策、法面・盛土の土砂災害防止対策を推進します。

橋の流出防止対策として、橋台周りを保護する護岸を整備し、災害に強い道路交通ネットワークの構築・機能強化を図ります。



【道路構造物の流失防止対策(橋台の護岸整備)】

土砂災害の危険性がある箇所に対する、法面对策の実施により災害に強い道路交通ネットワークの構築・機能強化を図っています。



令和4年10月撮影

【土砂災害防止対策(国道231号 斜面对策の整備)】

【今年度の実施（完了）状況】

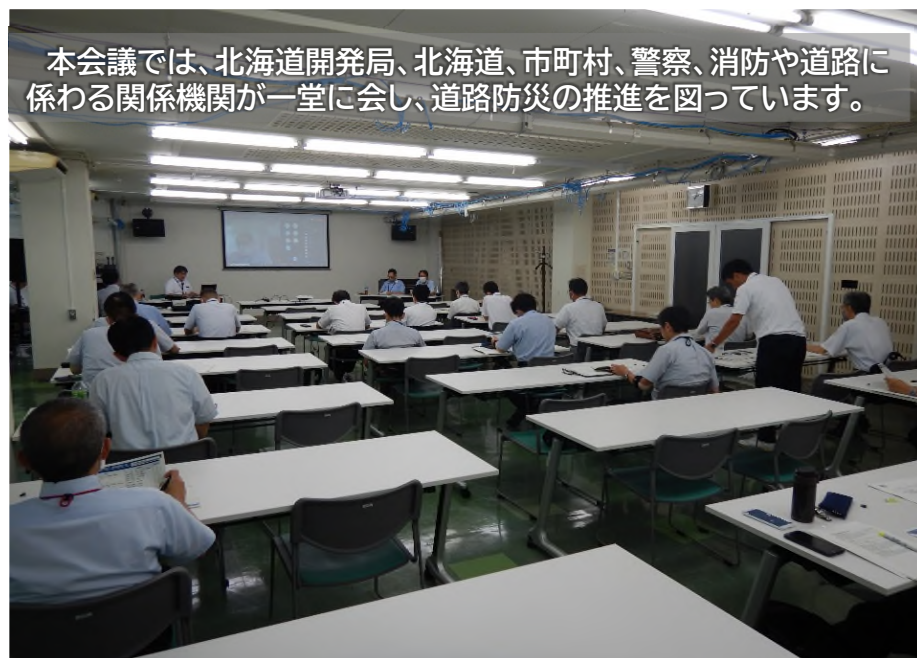
- 国道231号石狩市において災害防除工事(斜面对策など)を実施。
- また、橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策の検討に着手するなど、道路の防災・減災対策を推進。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○冬期交通の安全確保と暴風雪災害時におけるきめ細やかな地域支援

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格幹線道路等の整備、一般国道等の現道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。



【石狩・空知地方道路防災連絡協議会(WEB併用開催)】



【除雪作業】

【今年度の実施（完了）状況】

- 道路災害の防止及び災害発生時の被害拡大防止に向けて関係機関相互の連携強化を図るため、石狩・空知地方道路防災連絡協議会を開催(令和5年7月25日)。
- 冬期に向け、冬期道路維持管理情報共有化会議を開催し関係機関との除排雪の連携や雪堆積場の共有等について取り組んだ。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○災害発生時におけるきめ細やかな地域支援

大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のため、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)及びMAFF-SAT(農林水産省サポート・アドバイス・チーム)を派遣し、被災した地方自治体への技術支援を迅速に実施しています。



令和6年能登半島地震による被害の復旧支援のためTEC-FORCEを北陸地方整備局管内、MAFF-SATを北陸農政局管内に派遣しました。

【令和6年能登半島地震に伴うTEC-FORCE派遣 被災状況調査班(砂防)】



令和5年3月に発生した家きんの高病原性鳥インフルエンザによる北海道からの支援要請に対し照明車を派遣し、夜間の防疫作業を支援しました。

【令和5年3月家きんの高病原性鳥インフルエンザ発生による北海道からの支援要請に対応(千歳市)】

[今年度の実施(完了)状況]

- 令和5年3月、千歳市において家きんの高病原性鳥インフルエンザが発生。北海道からの支援要請に対し、照明車を派遣し、連日に亘る夜間の防疫作業を支援した。
- 令和6年1月、能登半島地震が発生。被害の復旧支援のためTEC-FORCE及びMAFF-SATを派遣。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○地域防災力の向上に向けた取組の推進

大規模災害を想定した各種訓練等により職員の危機管理能力の向上を図るとともに、防災関係機関で構成する協議会等に参画し、密接な連携、情報伝達体制を確立します。

排水ポンプ車、照明車、対策本部車、遠隔操作機械(ロボQs※)、小形無人ヘリコプター、ドローンの操作訓練に自治体職員も参加。開発局が行う災害対策用機械による支援について説明しました。



【自治体職員参加の災害対策用機械操作訓練】

※ ロボQsは、汎用されているバックホウを遠隔操作することができる災害対策用機械で、危険な災害現場での復旧工事で使用されている。

災害協定を締結している関係機関と訓練等を行い、災害時の対応確認、連携強化を図っています。



【NPO法人ポロクルとの災害協定連携訓練】

※ ポロクルを活用した非常参集訓練、リエゾン派遣訓練、TEC-FORCE被災状況調査訓練を実施した。

[今年度の実施(完了)状況]

- 札幌開発建設部と関係機関で締結している災害協定に基づく連携訓練を実施した。
- 防災関係機関で構成する協議会等に参画し、開発局が行う地域支援の概要説明を行い、理解促進に努めた。
- 北海道開発局が保有する災害対策用機械の操作訓練を自治体職員にも公開し、連携体制の確立に努めた。
- 大規模災害時の初動対応訓練として非常参集訓練、大雨災害RP訓練、大規模地震DIG訓練を実施した。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、低コスト技術を積極的に導入しつつ、無電柱化推進計画に基づき、各道路管理者・関係事業者と連携し無電柱化を推進します。



【整備前】(国道12号江別市野幌町)



【整備後】(国道12号江別市野幌町)

【今年度の実施（完了）状況】

- 国道12号札幌市白石中央、江別市野幌町、砂川市砂川、国道233号深川市深川において、電線共同溝工事を実施。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○交通安全対策の推進

事故データやビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」※を推進するとともに、高規格道路の暫定2車線区間については、正面衝突事故対策としてワイヤロープの設置を計画的に推進します。また、通学路や未就学児の移動経路において、子どもの安全な通行を確保するための取組を関係機関と連携し推進します。

※事故ゼロプラン: 交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組



【事故対策前】国道12号 町道16号線交差点改良
交差点改良事業(奈井江町)



【事故対策後】国道12号 町道16号線交差点改良事業(奈井江町)
(滑り止め舗装、減速路面標示等)

【今年度の実施(完了)状況】

- 国道234号町道古川東西線交差点、国道337号樽川中央通交差点等、管内16箇所において、交通安全対策を実施。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○交通安全対策の推進（事業箇所）

国道名	事務所名	事業名
5号	札幌道路事務所	新川IC交差点改良
12号	滝川道路事務所	江部乙付加車線整備
	岩見沢道路事務所	町道16号線交差点改良
230号	札幌道路事務所	石山交差点改良
275号	札幌道路事務所	道道岩見沢石狩線交差点改良
	札幌道路事務所	月形交差点改良
337号	千歳道路事務所	南幌路肩改良
	札幌道路事務所	樽川中央通交差点改良
451号	滝川道路事務所	市道啓南通交差点改良

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○社会経済活動を支えるインフラ施設の老朽化対策（河川管理施設）

安全・安心な河川の機能維持のため、堤防除草や河川巡視・点検を行うとともに、インフラ長寿命化計画に基づき、既存施設が機能発揮するよう、必要な河川管理施設の補修・設備の更新を行うなど、地域との連携及びコスト縮減に努めつつ、的確な河川の維持管理を推進します。



【堤防の維持管理のための除草・集草と配布(札幌市)】



※樋門とは？

普段は堤内の雨水等を河川に流し、大雨による洪水時には門を閉じて逆流を防ぐ施設です。



※排水機場とは？

洪水で樋門が閉じられた際、堤内の水をポンプにより河川へ排水する施設です。

【河川管理施設(樋門・排水機場)の維持補修】

【今年度の実施（完了）状況】

- 老朽化した河川管理施設の補修と併せて、洪水時に本川からの逆流を防ぐための樋門ゲートの無動力化や排水機場の運転を河川事務所からできるよう遠隔操作化を実施。
- 堤防の維持管理のための除草・伐採について、公募による有効活用によりコスト縮減に取り組んでいる。
- AI技術を活用した点検作業の検討や、災害時の速やかな被災状況の把握のためのドローンの活用など、維持管理を効率化するための試みを実施。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○社会経済活動を支えるインフラ施設の老朽化対策（道路施設）

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



【国道36号恵み野こ線橋の橋梁補修(恵庭市)】



【道路メンテナンス講習会(令和5年11月16日開催) WEB併用】

[今年度の実施(完了)状況]

- 2巡目点検結果を踏まえた早期措置が必要な施設への計画的な対策を実施。
- 今年度も「北海道道路メンテナンス札幌地方会議」を開催(令和5年8月30日)するとともに、講習会を開催(令和5年11月16日)する等、地方公共団体における老朽化対策への技術支援を実施。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○社会経済活動を支えるインフラ施設の老朽化対策（農業水利施設）

農業水利施設を対象に老朽化状況を調べる機能診断等を行い、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図り、農業の生産力の維持・確保と地域の防災・減災力の向上を推進します。



【ドローンを活用した北海幹線用水路(岩見沢市)の機能診断】



【豊幌排水機場(岩見沢市)のポンプ設備内の潤滑診断調査】

[今年度の実施（完了）状況]

- 農業水利施設の機能診断調査等を実施。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

（1）激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○社会経済活動を支えるインフラ施設の耐震強化（新千歳空港施設）

大規模地震災害時に緊急物資輸送拠点としての機能を確保し、航空ネットワークの維持等を図るため、河川函渠等の耐震補強や滑走路の液状化対策を推進します。

液状化層の地盤改良等により、滑走路表面の凹凸を防止



【新千歳空港施設 美沢川函渠の耐震対策】



【美沢川函渠耐震補強 施工状況】

【今年度の実施（完了）状況】

- 空港の下を横断している美沢川函渠の耐震補強など、今年度予定していた工事は完了。
- 早期整備に向け事業進捗を図った。

施策4. 強靱で持続可能な国土の形成

(2) 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

○河川環境の保全・再生や魅力ある地域づくり

健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するため「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立しました。舞鶴遊水地においても、引き続きタンチョウの生息環境維持・構築や地域活性化に向けた取組を実施します。



本協議会では、学識者、北海道開発局、環境省、北海道、市町村、企業、団体等が一堂に会し、健全な生態系ネットワークの形成に取り組みます。

当部が整備した舞鶴遊水地に、タンチョウがやって来ました。平成28年9月に長沼町と当部が連携し、生態系ネットワーク形成に向けた取組の一環として「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」を設立し地域の活性化に取り組んでいます。舞鶴遊水地では令和2年に初めてタンチョウのヒナが誕生しました。さらに令和3年、4年、5年と4年連続でヒナの誕生が確認されています。



【地域づくり専門部会の実施状況】



【R5.11舞鶴遊水地(長沼町)で確認された親鳥とヒナ】
(提供:環境省・一般社団法人タンチョウ研究所)

【第1回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会】 【今年度の実施(完了)状況】

- 石狩川流域の生態系ネットワーク形成を目的に、全体構想の策定、流域の取組に関する共有・拡大、情報発信等に関する包括的な役割を担う「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立(令和6年2月7日)。
- 第9回タンチョウも住めるまちづくり検討協議会を開催(令和6年2月7日)するとともに、地域づくり専門部会を開催(令和6年1月15日)し地域の魅力を発信する取組を推進。
- 令和2年度より4年連続で舞鶴遊水地においてタンチョウが繁殖に成功し、ヒナが誕生したことから、遊水地の一部を立ち入り制限するなど、タンチョウの生息環境維持・構築に向けた取組を実施。